

回 答 書

1 町名変更はこの町で生まれ育った私たち夫婦にとって、単なる名称の変更ではなくアイデンティティを損なう深い悲しみと喪失感を伴うものです。

町長・副町長はこの「町民の心の痛み」をどのように認識されていますか？

(回答)

まず、町名変更について、「生まれ育った町の名前が変わること」に強い悲しみや喪失感を抱かれているそのお気持ちを、私どもは決して軽く受け止めてはおりません。

町名とは、単なる呼び名ではなく、生活や家族の記憶、そして人生の時間と分かちがたく結びついている、とても大切な存在です。だからこそ、「悲しい」「寂しい」というお気持ちが生まれることは、極めて自然であり、当然のことだと考えています。

今回、私どもが議論させていただいている町名変更は、決して現在の「清水町」という名前や、これまで歩んでこられた町民の皆さまの歴史を否定するものではありません。むしろ、これまで先人の方々が築いてこられた歴史をしっかりと受け継いだうえで、将来世代がこの町で暮らし続けられるようにという視点から、「一つの選択肢」として検討しているものです。

また、今回検討しているのは、JRの駅名、JA名、インターチェンジ名などですでに広く使われている「十勝清水」という名称に合わせ、「清水町」を「十勝清水町」とするものであり、私たちが日常的に用いている「十勝清水」という呼び名を、正式名称として統一する、という位置づけです。

したがって、現在慣れ親しんでいる「十勝清水」という呼称が突然新しく現れるのではなく、すでに使われている名称を整理する、という側面があります。

さらに申し上げますと、清水町の名称は「人舞村」から清水村を経て「清水町」に時代の歩みとともに、その呼び名は変わってきました。しかし、名前が変わっても、この地域に流れてきた暮らし・心・つながりまで失われることはありませんでした。その歴史の延長線上に、今回の議論も位置づけられるものと考えております。もちろん、町名変更を最終的に決めるのは町民の皆さまです。行政の役割は、「こうした考え方や可能性がある」という情報をご提供し、よく理解していただいたうえでご判断いただく材料を整えることにあります。

そして、仮に町名が変わったとしても、「清水」という名の歴史そのものが消えることのないよう、歴史的名称としての継承や記念碑や町史・文化行事などの形での保存といった取組も、しっかり検討してまいります。

町名は“心の拠り所”であり、だからこそ、この議論に伴う痛みや不安を真摯に受け止めながら、丁寧に向き合っていくことをお約束いたします。

2 これほど重大な決断を、何故今このスケジュールで進める必要があるのか、納得いく説明を求めます。

(回答)

ご質問のとおり、町名変更は町の将来に大きな影響を与え得る、極めて重要なテーマであり

ます。そのため、「なぜ今、この時期に議論を進める必要があるのか」という点については、まず背景としまして、人口減少・産業構造の変化・地域間競争の激化など、私たちを取り巻く環境は近年、これまでにないスピードで変化しています。観光・移住・企業誘致など、様々な分野で全国的な競争が進む中で、自治体の「名前」が検索や情報発信において果たす役割は以前よりも大きくなり、インターネット検索、旅行予約サイト、SNSなどの分野では、地域名称の分かりやすさ・認知度が、実際に選ばれる確率へ直結するようになってきています。

こうした外部環境の変化を踏まえ、清水町としても未来に向けて、総合計画の目標達成に向けた観光振興や関係人口づくり、企業誘致、人材確保といった各分野で、中長期的な取り組みを展開していく必要があります。

その際、町の名称はすべての施策の“基盤”となる要素であり、名称が途中で変わることは、PR・投資・情報整備において少なからず影響を及ぼします。そのため、これから5年、数十年という単位で町づくりを進めていくことを考えると、名称の在り方については、できるだけ早い段階で方向性を整理しておく必要があると判断しました。

一方で、町名変更は拙速に決めてよいものではありません。そのため、情報提供の期間の確保や説明会によるご意見の聴取、町民の皆さまに判断いただく住民投票の実施といった一連のプロセスを事前に整理し、スケジュールとして「見える化」したうえで進めているものです。

「結論ありきで急いでいる」のではなく、将来の手遅れを防ぐために、早めに議論をスタートしたという位置づけであり、あくまで町民の皆さまのご理解とご判断を前提とした手続きです。

また、いただいたご意見やご不安の声については真摯に受け止め、必要に応じて説明方法や意見聴取の機会、期間等について柔軟に見直す姿勢で臨んでおります。

私どもとしては、この議論が町民の皆さまにとって「自分ごと」として考えていただけるだけの時間と材料をできる限り整え、そのうえで冷静に判断していただく、そのためのプロセス設計であることを、改めてお伝えしたいと思っております。

3 12月議会での答弁を拝見しましたが、町外者の意見には耳を傾ける一方で、何故町民アンケートの実施を拒まれるのでしょうか？

(回答)

まず初めに、「町民アンケートを実施しないのは、町民の声を軽視しているからではないか」というご懸念につきましては、たいへん重く受け止めております。

私どもは、今回の町名変更の議論にあたり、町民の皆さまのお声を多面的に伺うことが重要であると考えてきました。そのため、これまでにまちづくり懇談会や個別のご意見・ご提案、議会でのご議論など、いくつもの機会を通じて、幅広くご意見を頂戴してきました。

いただいたご意見は、賛否を問わずすべて真摯に受け止め、今後の検討の重要な材料とさせていただきます。

一方で、「賛成か反対か」という形式の町民アンケートを現時点で実施していない理由は、最終的には住民投票という、より明確で正式な意思決定手続きを予定しているためです。

アンケートは大切な意見把握の手段ではありますが、回答者層の偏りや設問内容による印象の影響、結果のみが一人歩きするリスクなどが避け難く、住民投票の前段階でアンケートという形で賛否を数値化いたしますと、その結果だけが強く意識され、町の皆さま同士の思いや考

えが、必要以上に対立的に受け止められてしまうおそれがあると判断いたしました。

したがって私どもは、アンケートで“仮の結論”を出すのではなくできる限り丁寧に情報提供と対話を重ねたうえで正式な住民投票で、町民の皆さまに最終判断いただくという手順が、より公正で責任ある進め方だと考えております。

なお、ご指摘のように町外の方々に対しては、清水町の認知度やイメージに関する調査を実施いたしました。これは「町名変更の賛否」を尋ねるものではなく、「清水町がどの程度知られているのか」、「どの名称なら認識されやすいのか」といった客観データを把握するための調査であり、あくまで「清水町の将来戦略を考えるための参考情報の一つ」として位置づけています。

繰り返しになりますが、最終的な判断権は、清水町に暮らす町民の皆さまにあります。行政はその判断材料となる情報を整え、説明責任を果たす立場であり、外部の意見はあくまで補助的な参考に過ぎません。

今後も、対話の機会の拡充や分かりやすい情報提供、いただいたご意見への真摯な受け止めを続けながら、住民投票という正式な手続きに向けて、できる限り丁寧に進めてまいります。

4 通常のまちづくり懇談会は14会場で行われるのに対し、今回の重要な説明会が清水・御影市街地で計4回に限定されているのは、対話の機会を狭めていると感じざるを得ません。農村地区での反対意見を避ける意図があるのではないかと勘ぐってしまいますが、会場数を絞った正当な理由を教えてください。

(回答)

今回の説明会の開催場所・回数につきまして、「対話の機会が狭められているのではないか」、「農村地区の意見を避けているのではないか」と感じられた方がおられることについて、まずはそのように受け止められてしまったこと自体、真摯に受け止めております。

今般の説明会を、清水地区・御影地区の市街地において計4回とした背景には、人口の多くが市街地に集中していること、まちづくり懇談会において情報提供させていただいたこと、冬期における移動のご負担を考慮したこと、などの理由があり、可能な限り多くの方に参加いただきやすい形を検討した結果としての設定でした。

しかしながら、こうした「合理的な理由」があったとしても、農村地域にお住まいの皆さまの中には、「自分たちの声が軽く扱われているのではないか」と感じられた方がいらっしゃるかもしれないことも、十分理解しております。

そのお気持ちを踏まえ、町としては今後、ご要望があれば、担当者がお伺いして説明する機会を設けることの検討や文書・電話・メール等による個別のご質問にも丁寧に答えすること、などできるだけ多くの方を受け止められる方法を拡充してまいります。

また、はっきりとお伝えしたいのは、反対意見を避ける意図は一切ございません。むしろ、町名変更の議論においては、賛成・反対それぞれのご意見を伺うことが、将来に向けたリスクや課題を正しく認識するうえで、非常に重要であると考えています。

町としても、今回のご指摘を重く受け止めつつ、「どの地域に暮らす方のお声も等しく尊重される」そのような姿勢で、引き続き丁寧な対話を心がけてまいります。

5 故郷を離れて暮らす東京清水会、札幌清水会、帯広清水会の人たちの意見も聞きましたか？
どのように言っていましたか？

(回答)

故郷を離れて暮らしながらも、清水町を応援してくださっている東京清水会・札幌清水会・帯広清水会の皆さまのお考えについても、できる範囲でお伝えしております。

私自身、東京清水会・札幌清水会の場に参加させていただき、町名変更の検討についてご説明する機会をいただきました。

まず、6月8日に開催された東京清水会では、町名変更の検討が始まって間もない時期でもあったためか、話題としての印象は比較的薄く、強い賛否の議論が起こるというよりも、「そういうことを検討しているのか」という受け止めが中心であったと感じています。

一方、10月25日に開催された札幌清水会では、検討状況が広く知られるようになってきた時期でもあり、参加された皆さまからは大きな関心を持って受け止めていただきました。

また、その場では「十勝の名を冠することは、町の魅力発信につながるのではないか」といった、比較的前向きなご意見も多く頂戴いたしました。

町外で暮らす皆さまのお声は、「ふるさとを離れた立場から見た客観的な視点」として今後の参考にさせていただきながら、引き続き、町民の皆さまへのご説明と意見交換を丁寧に進めてまいります。

6 現在もホームページ等で「十勝清水町」を愛称として活用されており現状で十分機能していると考えます。多額の公費を投じてまで「正式名称」を変更しなければならない、愛称では代替できないメリットとは具体的に何ですか？

(回答)

ご指摘のとおり、現在も町では「十勝清水町」という表記を愛称として活用しており、一定の機能を果たしている場面があることは、私どもも認識しております。

そのうえで、今回議論しているのは、「愛称としての利用」と「正式名称としての変更」には、法的・制度的に大きな違いがあるという点です。

まず、「愛称」はあくまで広報やPRなどで任意に使用する呼称であり、住所表記や登記や契約書類、役所の公文書、統計・国のデータベース、観光サイト・検索サイトの正式名称表示といった公的・公式な場面では使用することができません。

一方で、もし正式名称が「十勝清水町」となった場合には、住所・登記等の表記や公共施設名称、地図・ナビゲーション、観光・予約サイト上の表記、全国メディア表記などが一貫して同じ名称で統一されることとなります。

現在の「愛称利用」のままですと、媒体によって「清水町」「十勝清水町」「北海道清水町」と表記が分かれることや検索や地図上で「十勝」と結びつかない場合があること、北海道外や海外の方には場所が伝わりにくいことといった、名称の統一性・認知性の面で一定の限界があります。特に、観光・移住・企業誘致などの分野では、検索・地図・予約サイト・SNSといったデジタル上での表示が町の入口になる時代となっており、名称のわかりやすさ・認知されやすさが、選ばれる確率に影響を与える傾向があります。そのため、町名の統一は、すぐに大きな変化が起こるというよりも、長期的に町の「基盤となる資産（ブランド）」を整える取り組みとい

う位置づけで検討しているものです。

一方で、町名変更には当然ながら、表示の変更やシステム改修、住民・事業者の皆さまの手続き負担など、公費と一定のご負担が伴うことも事実であり、ここを軽く考えているわけではありません。だからこそ、長期的に見た場合の効果や発生する費用や負担、将来世代への影響など、これらを総合的に比較し、「町として投資に見合う判断なのか」という視点で、慎重に検討しているところです。

繰り返しになりますが、「愛称でも全く問題がないのではないか」というご意見も、もっともであり、そのお声も含めて、町として真摯に受け止めながら議論を進めております。

最終的な判断は、行政だけで行うのではなく、町民の皆さまのご判断を仰ぐ形で進めてまいります。

7 十勝清水町に町名変更した場合は、当然現在の町旗・町歌も変えるのでしょうか？

(回答)

町名変更をご検討いただく中で、「町旗や町歌も変わってしまうのではないかな」というご不安をお持ちの方もいらっしゃると思います。

現時点で町として考えておりますのは、町名の変更はあくまで“名称の変更”であり、町旗・町歌を新たに作り直すことを前提としているものではないということです。

現在の町旗や町歌は、清水町の歴史の中で町民の皆さまとともに生まれ、受け継がれてきた大切なシンボルであり、町としても、これらを安易に変えるつもりはございません。仮に町名が「十勝清水町」となった場合であっても、現在の町旗・町歌は、これまでどおり継続して使用する方針であり清水町の歴史とともに歩んできた象徴として、今後も大切にしていきたいという考え方を基本としております。

私たちが目指しているのは、「すべてをリセットすること」ではありません。これまでの清水町の歴史をしっかりと継承しながら、その上に、新しい時代の要素を少しずつ積み重ねていく、そのような姿勢で、町名変更の議論も進めております。

今後も、町民の皆さまのお気持ちに寄り添いながら、安心して議論に参加していただけるよう、丁寧な説明に努めてまいります。

8 町名変更による期待される効果(目標)を数字で具体的に示されたい。(例えば観光客数、特産品販売売上額、体験住宅利用件数、移住者数、町内イベント入り込み数、清水高校生徒数、ふるさと納税額、企業誘致数など5ヶ年の年次目標値など)

(回答)

「町名変更による効果を、数字で具体的に示すべきではないか」というご指摘につきまして、たいへん重要なお意見であると受け止めております。町としても、数値目標を設定し、検証していくことは必要であると考えています。

一方で、町名変更という取り組みは、その性質上、単独の要因として効果を切り出すことが非常に難しいという課題があります。観光客数・移住者数・企業誘致・ふるさと納税額などは、イベントやPR、インフラ整備、事業者・地域団体の取り組み、全国的な人口動態・景気動向といった、多くの要因が重なって決まるため、「町名変更だけで何人増える・いくら増える」と断定

的に申し上げることは適切ではないと考えています。

しかしそのうえで、町名変更を含む総合的なブランド戦略の成果として、中長期で数値目標を設定し、定期的に検証する方針です。

具体的には、例えば次のような指標について、5年程度のスパンで現状比の目標値を設けることを検討しています。

- ・ 観光入込客数
- ・ ふるさと納税額
- ・ 体験住宅等の利用件数
- ・ 移住相談件数
- ・ 企業からの問い合わせ件数 など

これらについて、達成可能性を慎重に見極めながら、無理のない“レンジ目標（幅を持った目標）”として設定することを基本としてまいります。

また、設定した目標については、進捗状況を公表すること、想定どおりでない場合も隠さず共有すること、必要に応じて施策を見直すことといった、説明責任を伴った運用をまいります。

いずれにいたしましても、町名変更は「名称だけで即座に効果が出る」というものではなく、町民の皆さまとともに積み重ねていく、長期的なまちづくりの一環です。その過程を数字でも確認しながら、丁寧に進めていきたいと考えております。

9 町名変更後、期待された効果(ブランド力向上や経済効果等前項の達成値など)が見られなかった場合、どなたがどのように責任を取られるのでしょうか？

(回答)

「もし町名変更を行っても、期待された効果が表れなかった場合、誰が責任を取るのか」というご質問は、たいへん厳しく、そしてもっともなお尋ねであると受け止めております。

まず大前提として、町名変更は町長個人が一存で決めるものではありません。住民投票や議会での議決など、正式な手続きを経て判断される、「町としての意思決定」となります。

そのうえで、行政の責任の取り方とは、「施策の結果をきちんと検証を行い数字や状況を隠さずお示しし必要に応じて見直しや追加策を講じていく」、こうした取り組みを、継続的に行っていくことであると考えています。

私自身、町長として在任している間は、当然ながらその結果についての政治的責任を負う立場にあります。その評価は最後には選挙という形で、町民の皆さまから受けることとなります。

ただし、町名変更は長い年月をかけて効果を積み重ねていく性質のものであり、「誰か一人が辞めれば済む」という種類のものではありません。大切なのは、仮に期待どおりの結果が得られなかった場合でも、町として何が課題であったかを検証し、どうすればより良い方向へ立て直せるのかを考え続けることであると考えています。

つまり、責任とは「結果が出なかったら終わり」ではなく、結果を踏まえてより良い未来に向けて行動し続ける責務であり、行政はその先頭に立ち続けなければならないと考えております。

いずれにいたしましても、ご心配や疑問を率直にお寄せいただいていることを重く受け止め

ながら、今後も丁寧な情報公開と説明責任を果たしてまいります。

10 一度変えた町名を数年後もう一度元の町名に戻すことは可能でしょうか？

(回答)

「一度変えた町名を、うまくいかなかったら元に戻せるのか」というご不安は、当然のものと受け止めております。

まず、制度上のお話を申し上げますと、法的には「もう一度町名を変更すること自体」は不可能ではありません。再度変更する場合も、最初の町名変更と同様に、所定の法的手続きや協議、議決などを経て進めることになります。

しかしながら、実務的には非常に重い選択になることも率直にお伝えしなければなりません。再変更を行うとなれば、再び費用と、行政・住民双方の大きな手間がかかること、住所や表記が再度変わることで、町内外の方々に大きな混乱が生じること、「方針がぶれている町だ」という印象を持たれ、対外的な信頼にも影響しかねないことといった問題が想定されます。

このように考えますと、「とりあえず変えてみて、ダメなら戻せばよい」というような軽い気持ちで判断してよいものでは、決してありません。

だからこそ、今回の町名変更の議論にあたっては、できる限り多くの情報をお伝えすること、町名変更のメリット・デメリットの両面を共有すること、住民の皆さまからのご意見やご不安の声を丁寧に伺うことを重ねたうえで、慎重にご判断いただく必要があると考えております。

また、仮に町名を変更することになった場合には、「いずれ元に戻すことを前提とした、一時的な変更」ではなく、新しい町名をどのように活かし切り、町の力に変えていくかを、町として本気で考え続ける責任があります。

この点についても、住民の皆さまとしっかり共有しながら、軽々しくではなく、その重みを十分に自覚したうえで議論を進めてまいりたいと考えております。